

## こうち看護協会訪問看護ステーション事業

### I 令和5年度訪問看護ステーションの目標及び結果

#### 1. 質の高い訪問看護の提供

##### 1) 定期的な事例検討会と勉強会の実施

・事例検討会は毎月実施、勉強会の開催は2回/年実施。ほぼ計画どおりに実施した。

##### 2) 事業所の組織評価

・日本訪問看護事業財団の組織の自己評価指標を使用して評価を実施(令和6年3月)

##### 3) 利用者満足度調査の実施

(1) 令和6年2月19日～3月8日にかけて利用者満足度調査を実施した。

##### (2) 結果

① 対象者41名、回答者40名(回答率97.6%、医療保険26名、介護保険14名)

② 訪問看護に対して14項目の満足度調査の結果、ほとんどが、「そう思う、まあそう思う」と回答し、「あまりそう思わない」は医療保険で1名あり、その内容はサービスの利用手続きが簡単ではなかったという回答であった。

③ ご意見や要望についてはすべて感謝の言葉であった。今後、引き続き利用者のニーズに対応できるよう取り組む。

##### 4) 外部研修会等への参加によるキャリアアップ

1) 看護師8名がのべ27研修等に参加、学びを共有し質の向上に努めた。

#### 2. 人材育成

1) 訪問看護実習・研修生受け入れは、56人に対してのべ210日間受け入れた。

教育機関名	受入人数(名)	延べ日数(日)
高知病院附属看護学校	10	80
県立大学(大学院含む)	11	53
開成専門学校看護学科	4	12
高知学園短期大学看護学科	4	16
龍馬看護ふくし専門学校	4	20
穴吹通信課程	5	10
在宅ケア研修看護師	8	8
その他	10	11
	56	210

2) 管理者含む3名の看護師が看護師養成機関の講師依頼を受け、次世代育成及び訪問看護の普及に努めた。

#### 3. ステーションの経営の安定化

2ヶ月ごとに経営状況を把握し共有、訪問実績については目標達成に少し及ばなかったが利用者の確保等に職員全員が関わっている。

#### 4. 高知県及び高知市からの委託事業

1) 高知県中山間地域等訪問看護サービス確保対策事業 2名

2) 重症心身障害児(者)等レスパイト事業 4名

3) 高知市医療的ケア児通園支援事業 4名

5. 訪問看護ステーション運営委員会を2回/年実施した。(令和5年11月、令和6年3月)

## II 組織体制

1. 職員数:管理者1名、看護師7名(常勤5名、非常勤2名 実質6.3名)、事務職員1名

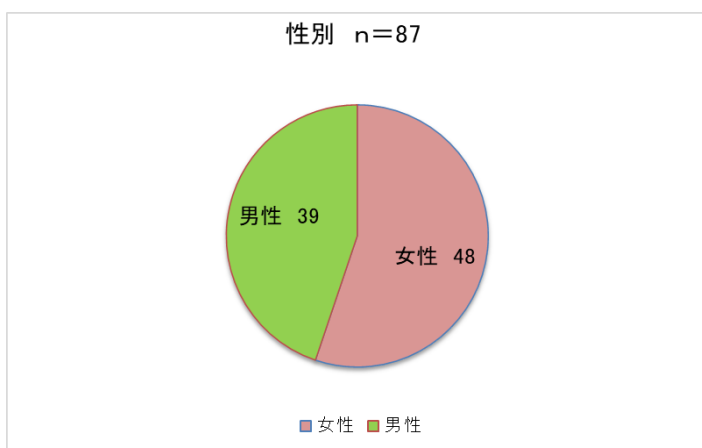
## III. 訪問実績

1. 利用者数(医療的ケア児4名含む)

1) 令和5年度の1年間の利用者数は87名(昨年度91名)で昨年度より4名減少した。

2) 性別では、女性48名、男性39名と女性が過半数を占めた。

内訳は、医療保険利用者では58名のうち、男性29名、女性29名であり、介護保険利用者では29名のうち、男性19名、女性10名であった。

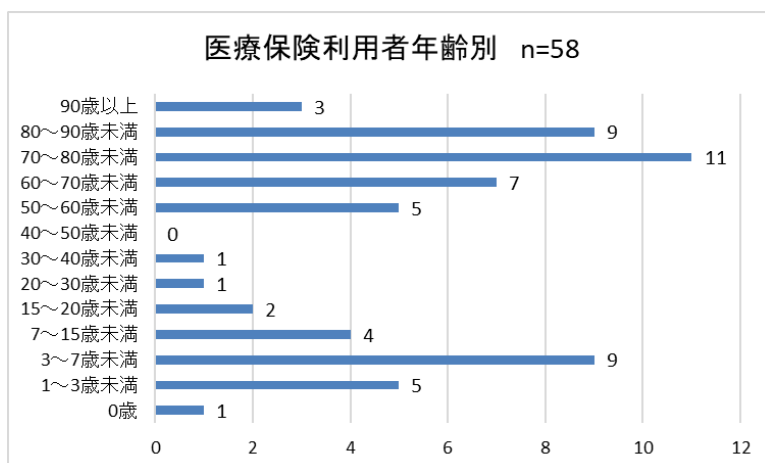


医療保険利用者	男性	29名
	女性	29名
介護保険利用者	男性	19名
	女性	10名

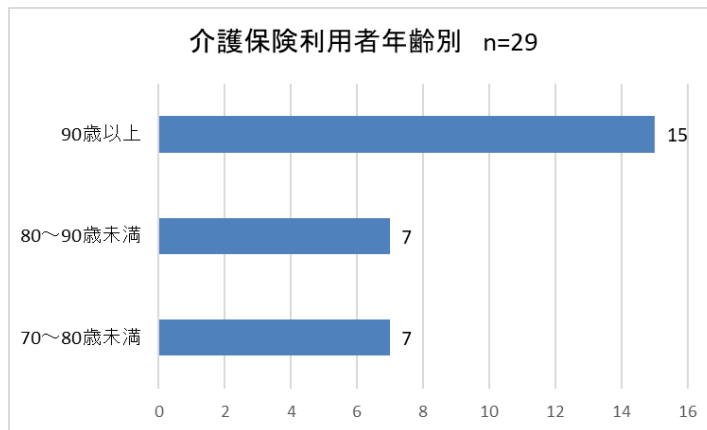
2. 保険別利用者数

1) 医療保険利用者は58名(医療的ケア児4名含む)で利用者全体の66.7%、うち小児が19名で医療保険利用者のうち32.8%、利用者全体では21.8%を占めている。58名のうち、成人では、60歳以上が30名で医療保険利用者のうち51.7%、利用者全体では34.5%であった。

医療保険利用者の平均年齢は50.5歳であった。



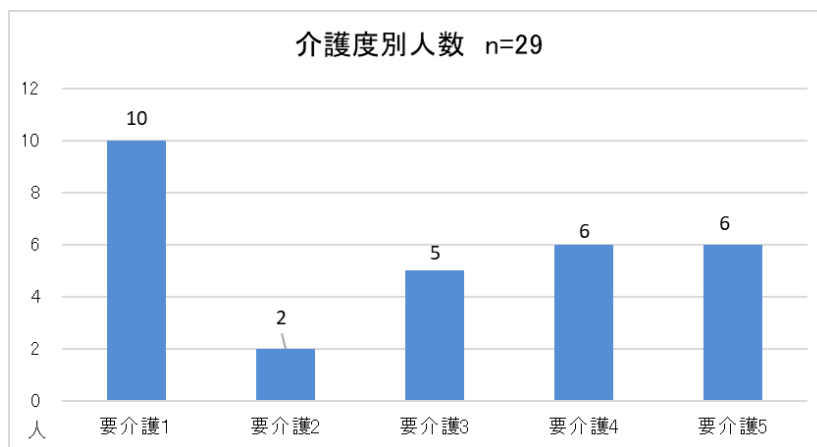
2) 介護保険利用者は 29 名で利用者全体の 33.7%で昨年度よりやや減少した。介護保険利用者のうち、80 歳以上が 75.9%、90 歳以上が 24.1%であり、平均年齢は 89.1 歳で昨年より 3 歳程度高くなった。介護保険利用者の平均年齢は 89.1 歳であった。



### 3. 介護度別利用者数

1) 男性 10 名、女性が 19 名で女性が多い。

2) 介護度別では、要介護1が最も多く、次いで要介護4及び5、要介護3、要介護2が最も少なかった。



### 4. 訪問件数

1) 総訪問件数は 4938 件で、昨年度 5007 件に比し 69 件減少した。

① 介護保険利用件数は 1275 件で総件数の 25.8%、昨年度 1210 件とほぼ同じであった。

② 医療保険利用件数は 2676 件で全体の 54.2 %、昨年度に比し 281 件減少した。そのうち成人が 1711 件、小児が 965 件であった。成人・小児ともに減少した。

③ 高知市医療的ケア児通園支援事業として医療的ケア児の訪問件数は 933 件と増加している。

④ 医療保険利用件数と医療的ケア児の件数を合わせて 3609 件となり、総件数の 73.1%を占めている。

介護保険	医療保険	医療的ケア児	オプション	合計
1275 件 (25.8%)	2676 件 (54.2%) 成人: 1711 件 小児: 965 件	933 件 (18.9%)	54 件 (1.1%)	4938 件

2) 1か月の平均訪問件数は412件(昨年度417件)、看護師一人当たりの月平均訪問回数は、56,1件(昨年度53,8件)であり、前年度とほぼ同様であった。

5. 新規依頼と継続者の内訳(カッコ内は前年度数)

総数がやや減少し、継続者は微増、新規依頼者が10件減少している。

総数	継続	新規
87名(91)	54名(48)	33名(43)
		医療28名・介護5名

6. 終了者の状況

1) 終了者は全体で43名(昨年度45名)であり、昨年度とほぼ同じであった。

2) 内訳は、死亡24名(昨年度34名)、入院及び施設入所10名、状態改善5名、その他4名であった。

3) 死亡24名のうち、在宅看取りは15名(昨年度25名)、医療機関での死亡は9名(昨年度9名)であった。

IV まとめ

1. 令和5年度は、利用者数が若干名減少したが、看護師一人当たりの月平均訪問件数は56件と昨年とほぼ同じであり、最低でも60件以上を目指していく必要がある。

2. がんターミナルの看取り件数はやや減少、また、小児訪問看護件数も軽快により終了した児が複数名いたため減少、令和元年度に新規に開始された「高知市医療的ケア児通園支援事業」としての訪問が増加し月78件程度となっている。医療的ケア児への訪問看護は、小児の就学を支援するために必要なサポートであり、当協会のステーションの役割を果たす上からも、今後もニーズがある限り対応し、訪問看護の質の向上、関係機関との連携を強化し、在宅療養者の支援を強化していく。

3. 当ステーションとして在宅看取りにも力をいれており、今後、在宅看取り件数が増加するよう、引き続き職員全員で看取りができる体制を強化していく。

4. 小児の拠点ステーションとして、訪問看護ステーション看護師の教育支援を行い、看護師全員が小児の訪問看護に対応できるよう支援を継続する。

5. 介護保険の利用者は平均年齢89歳と高齢であり、介護度が低い利用者であっても状態の変化が起きやすいため、引き続き、現在の介護度が維持できるレベルの体調の自己管理・生活機能の維持に努める。

6. 地域の医療機関との連携については、コロナ禍の影響もあり看護師の出向はなかったが、今後も関係機関との連携を推進し機能強化型の申請要件について検討していく。

7. 研修生及び実習生の受け入れについては、コロナ禍という状況であったが、ほぼ予定どおり受け入れるができた。今後も、在宅看護の普及と、在宅看護に関わる人材育成に努める。

8. 訪問看護の役割は、重症化を早期発見、予防し、利用者の尊厳を保ち、最後まで住み慣れた場所で過ごすことができるよう支援していくことが重要であり、その視点を持って人材育成を行いケアの質を高めていく。